

## 環境デザイン統合教育プログラム（IEDP）について

ご入学おめでとうございます。IEDPは、8つの「スタジオ」と1つのオムニバス講義「統合環境デザイン論」から成る、専攻横断型のデザイン教育プログラムです。スタジオは、世界のデザイン教育において広く普及している実践的な授業形式です。担当教員が課題を設定し、受講生はそれに応える形で自主的に制作・提案活動を行っていきます。

環境学研究系では、従来の「建築」「都市」「ランドスケープ」のデザイン領域に「流域保全」「地域活動」「メディア表現」を加え、幅広いテーマでスタジオ教育を行っています。いずれのスタジオでも、研究を通じて得た知識や経験を実社会の課題解決へ活かすための技術や表現方法の習得を目的としており、実践的な教育の場を提供しています。

各スタジオは2単位もしくは4単位で設計されており、スタジオを6単位以上履修し、かつ統合環境デザイン論（2単位）を受講することで、プログラムの修了要件が満たされます。プログラムの修了を目的とせず、興味のあるスタジオを単独で受講することも可能です。

より詳しくはパンフレットやウェブサイトをご覧ください。興味をお持ちの方は、4月11日（木）の6限（18:45～20:30）にオンラインで行われるガイダンスにご参加ください。Zoom URLは

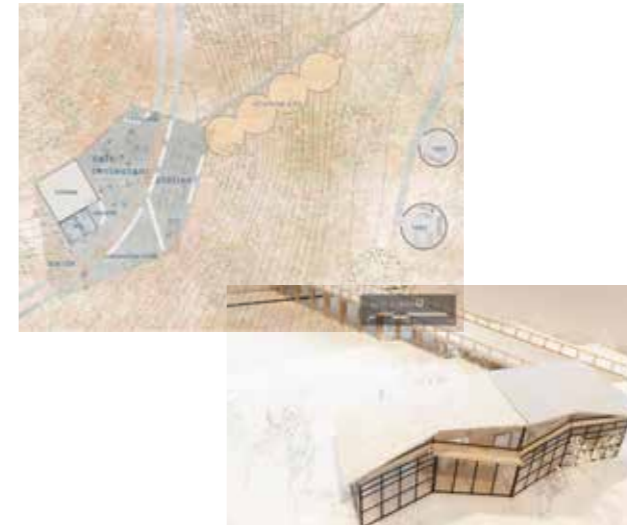
「統合環境デザイン論」のものと共通となりますので、UTASにて検索ください。

皆さんの受講をお待ちしています。

寺田徹（自然環境学専攻准教授・IEDP代表教員）

IEDP ウェブサイト <http://www.iedp.site/iedp/iedp-top.html>





# 環境デザイン統合教育プログラム



# IEDP

Integrated Environmental Design Program

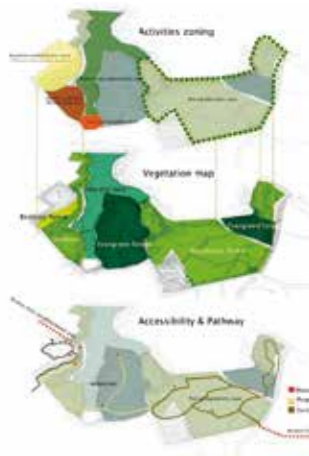
東京大学新領域創成科学研究科環境学系（柏キャンパス）

- Architecture Design Studio
- Structural Design Studio
- Urban Design Studio
- Landscape Design Studio
- Natural Environmental Design Studio
- Watershed Design Studio
- Community Activity Design Studio
- ICT & Multimedia Design Studio
- Lectures on Integrated Environmental Design

<https://iedp.site/>



- 建築環境デザインスタジオ
- 建築構造デザインスタジオ
- 都市環境デザインスタジオ
- 緑地環境デザインスタジオ
- 自然環境デザインスタジオ
- 流域環境デザインスタジオ
- 地域活動デザインスタジオ
- 情報環境デザインスタジオ
- 統合環境デザイン論





# IEDP

Integrated Environmental Design Program

## 環境デザイン 統合教育プログラム (IEDP) とは

専攻を超えたスタジオで環境デザインの専門家を養成する IEDPは、2007年度に環境学研究系に設置された、専攻横断型のデザイン教育プログラムです。8つのスタジオと1つのオムニバス講義から構成されており、これまでに100名近いプログラム修了生を輩出してきました。履修生は、複数のスタジオで制作・提案活動を行い、オムニバス講義で各スタジオのエッセンスに触れることにより、環境デザインに関わる幅広い技術と知識を習得できます。プログラムでの学びを履修者自身が各々の哲学に基づき深化させることで、新しい時代の環境デザインの専門家が次々と生まれていくことが期待されています。

### 実践を見据えた環境デザインの多彩なアプローチを学ぶ

IEDPが扱う「デザイン」は、従来の「形を創り出す」行為にとどまらず、環境学が抱える諸課題の解決に向け、思考・概念を組み立て、それを様々な媒体で表現する行為のすべてを含みます。本プログラムは、建築・都市・ランドスケープ等の従来の設計領域に加えて、情報技術や地域活動など多種多様なスタジオから、環境デザインの多彩なアプローチを学ぶことを特徴としています。

## 2024年度の受講にあたって

### 履修・修了要件

1. 本プログラムが想定する履修者は、環境学研究系各専攻の学生です。学部で建築、都市、ランドスケープなどの設計を既に学んだ人が、知識の幅を広げ技術を深められるように組み立てられている一方、学部で設計教育を受けていない学生が、それぞれの知識を生かし力量に応じて取り組めるように工夫されています。
2. 修了条件は、環境デザイン統合教育プログラム科目の「デザインスタジオ」の中から6単位以上、かつ「統合環境デザイン論」2単位の取得です。条件を満たした学生には、「環境デザイン統合教育プログラム修了証」が新領域研究科長から授与されます。
3. 本プログラムは、入学後に履修登録することで履修できます。
4. 各デザインスタジオは単独でも履修できます。

## 2024年度のスケジュール

今年度は全スタジオ（8スタジオ）が開講します。

### 環境デザイン統合教育プログラム 共通ガイダンス

4月11日(木) 18:45~20:30 (オンライン開講、URLは「統合環境デザイン論」のシラバスを参照)  
IEDPのスタジオ履修希望者は全員出席してください。プログラム全体の趣旨説明、各スタジオの過去の活動について説明し、プログラム履修の手引きとします。

夏	1限 8:30-10:15	2限 10:25-12:10	3限 13:00-14:45	4限 14:55-16:40	5限 16:50-18:35	6限 18:45-20:30
月						
火						
水						
木						統合環境 デザイン論
金	建築環境デザインスタジオ1 (岡部)	地域活動デザインスタジオ1 (鈴木)				

- 建築環境デザインスタジオI(岡部)は4月12日(金)開講。
- 建築環境デザインスタジオII(岡部)は8月下旬~9月に断続的に集中開講。
- 緑地環境デザインスタジオ(横張)は7月下旬~8月上旬に集中開講。
- 流域環境デザインスタジオ(福永)は集中開講、7~10月にフィールドワークと製作WS、11月9~10日に展示。
- 地域活動デザインスタジオI(鈴木)は4月12日(金)開講。
- 地域活動デザインスタジオII(鈴木)は8月下旬~10月上旬に断続的に集中開講。
- 担当教員の許可により他の講義と重複履修することが可能な場合がありますので、詳しくは各スタジオの担当教員にご相談ください。
- 教育プログラム全般、各スタジオの間合せ先については、p.24の間合せ先一覧をご確認ください。

冬	1限 8:30-10:15	2限 10:25-12:10	3限 13:00-14:45	4限 14:55-16:40	5限 16:50-18:35	6限 18:45-20:30
月		情報環境デザインスタジオ (小林・佐々木)		都市環境デザインスタジオ (清家)		
火				都市環境デザインスタジオ (清家)		
水		建築構造デザインスタジオ (佐藤)				
木				自然環境デザインスタジオ (寺田)		
金				自然環境デザインスタジオ (寺田)		



### 建築行為で人と土地をつなげる

## 建築環境 デザインスタジオ

主担当：岡部明子 教授

本スタジオではこれまで、途上国都市のスラム、高齢化で手入れの行き届かなくなった家屋や土地をフィールドに、実践を通して「建築とは何か」その原点を問うてきました。2024年度は、建築行為は「人と土地のつながり」であるという意識をもって、無住化が進む国土について手を動かす実践を通して考えます。対象は長野県小谷村真木。1970年代に、「土地に定着して住む」という意味ではつながりを絶った土地が、人とどうつながって今に至っているのか。真木に身を置いて、かつての人と土地のつながりの痕跡を手がかりに次の建築実践を行います。



本プログラムは、デザインスタジオをベースとし、従来の領域構成を超えた環境デザインの専門家を養成する大学院教育プログラムです。8つのデザインスタジオと講義科目「統合環境デザイン論」により構成されています。

### 都市と農村の持続的なかかわりを考究する

## 緑地環境 デザインスタジオ

主担当：寺田徹 准教授

本スタジオはMemu Earth Lab(北海道大樹町)を拠点として行う、シンガポール国立大(NUS Cities/Landscape Architecture)との合同スタジオです。原則英語で行います。現地に向かう前にインターネット上の情報で下調べを行うRead、現地において自らの身体で土地/資源の再読を行うRe-Read、そして現地での経験を本質的な問いに還元させるMake Questionsの3つのプロセスを通じて、都市と農村との持続的なかかわり方について考究します。



### 地域固有の風土文化にもとづくまちの再生

## 自然環境 デザインスタジオ

主担当：寺田徹 准教授

まちは本来、その土地の気候・地質・景観などの風土から生み出される生活、産業、文化に根差すものであり、そうして生まれたまちの個性が、住民の地域愛着や帰属意識、ひいては住民自身によるまちづくりの実践につながっていきます。しかし、日本の多くの中小都市では人口流出やスポンジ化などが課題となっており、何もしなければ、地域はますます衰退してしまいます。本スタジオでは豊かな自然環境を背景として様々な地域資源に恵まれている埼玉県小川町を対象とし、地域固有の風土文化にもとづくまちの再生をテーマに、地元住民と対話しながらまちづくりの提案を行います。



### Integrated Environmental Design Program

# IEDP



安全な構造デザインを導くエンジニアリング手法の実践

## 建築構造 デザインスタジオ

主担当：佐藤淳 准教授

豊かな空間を生み出す構造デザイン。その大前提は、安全性の確保です。本スタジオでは、屋外に実際に架構を構築することを最終目標に、構造デザインを提案するために必要な知識、技術を学びます。各自で材料の特性を生かす形状を提案し、幾何学的にコントロールするパラメーターと、力学的・環境的な評価指標を把握します。そして簡易な構造実験と構造解析を行い、モックアップを製作して施工の問題を明らかにした上で、案を1つに融合させて屋外に実際に構築します。一連の過程を実践することで、その形態を設計施工する手法が構築されます。



### 都市を読み解き数十年先のデザインを構想する

## 都市環境 デザインスタジオ

主担当：清家剛 教授

都市は生き物です。居住者の属性やライフスタイルの変化に応じて、地域のニーズや課題は時代と共に変化していきます。本スタジオは、つくばエクスプレス沿線・柏の葉を対象とした、柏の葉アーバンデザインセンターや沿線の大学との共同による実践的演習です。まずは現場に出て地域を解読することから始め、ヒアリングで居住者のニーズや生活パターンを把握し、都市の成り立ちや構造を読み解くことで、地域の可能性を追求します。景観だけでなく都市活動を支える仕組みと共に、数十年先までのシナリオを描き、住み続けるためのエリアマネジメントの提案にまで繋がります。



地域の景色を生み出す地域活動をデザインする。



## 地域活動 デザインスタジオ

主担当：鈴木亮平 非常勤講師

まちづくりにおいて、ハードの整備ももちろん重要ですが、日々の暮らしの中に豊かな景色をつくっていくのは、そこに住む人々による営みや活動です。本スタジオでは、復興まちづくりに取り組む福島県新地町をフィールドに、今ある新地の魅力や資源を活かして、新たな風景を描いていくことにチャレンジします。新たに整備された駅前や沿岸部の活用、震災による大きな影響を受け、今もお模索が続く漁業の未来、まちづくりを牽引していくべきUDCの運営等、地域の方々と一緒に考えながら、提案・実践していくスタジオです。4~7月(スタジオI)では、現地調査を踏まえて提案をし、8~9月(スタジオII)で実際にイベントや企画に取り組みます。

### 流域を単位に人間以外の生きものたちとの世界を考える



## 流域環境 デザインスタジオ

主担当：福永真弓 准教授

気候変動や災害リスクに対して地域社会の社会的・生態学的弾力性(レジリエンス)をどのように高めることができるのか。本スタジオは、河口域を含む沿岸から川、集水域全体を含む「流域」という単位に着目し、人間以外の生きものたちが住む世界と、その世界と育んできた社会文化を手がかりに、この問いに取り組みます。地域の基盤を構築する地質・地形・水系をたどり、土地利用の変遷を捉え、社会と人の営みを歴史的な脈も含めて描写してみませんか。現代社会では見えにくくなっている流域とその多様な機能・社会空間としての意味づけを豊かにできる実践を、具体的に地域の人びとと考える、表現してみましよう。



### 様々な分野の環境デザインとの関わりを俯瞰する

## 統合環境デザイン論

IEDPの特徴は、従来別々の研究科や専攻でバラバラに行われてきた多様な設計科目を集めることで、居住環境を総合的に扱えるデザイナーとしての技量を磨く場を提供することです。本講義はスタジオの担当教員によるオムニバス。学生がすべてのスタジオを履修しなくても、多様な分野の環境デザインとの関わりや現在直面する課題などを俯瞰でき、各スタジオ課題では触れられなかったことを補うことで、より一般的な知識を提供する科目です。(IEDP修了要件)